

第7回国際小児保健学会学術大会 2023

シンポジウム

「障害児・者への支援と海外医療協力の可能性」

ベトナムの現状と日本でベトナム人作業療法士として働く動機や展望

姫路聖マリア病院 重症障害総合支援センター ルルド 作業療法士
ユ テー タン

来日してから始めて作業療法士の専門職を知り、日本の大学にて教育を受け、作業療法士資格を習得した。日本の医療施設就職をきっかけに、母国の医療サービス及びリハビリテーションについて調査した。

近年、ベトナムの経済発展により、社会のインフラ整備が進み、国民生活は大きく向上された。それに伴い、人口動態や疾患構造の変化も見られている。保険医療サービスは成長しているが、医療施設間でのレファラルシステム導入により、受診できる施設が制限され、かつ、省・郡病院や村落レベルの医療施設・人材及び専門性の差が大きい為、質の高い医療の提供が困難で、また多くの医療施設は混雑しており、それらは今後の大きな課題である。リハビリテーションについて述べると、リハビリテーション資格は、理学療法士のみである。2015年にUSAIDの資金提供を受け、「ベトナムにおける作業療法訓練の開発」プロジェクトが行われ、日本からのセラピストも現地に派遣されている。今後、日本の大学などと連携し、人材教育や専門性の習得、スキルアップの援助が期待されている。

医療施設及び医療制度が充実している日本で作業療法士として働く体験の下に、ベトナムの現地で働いているセラピストらと協力し、母国における作業療法士の専門性のみならず、医療チームの重要性を普及し、地域に暮らしている患者・障がい児・者への支援を行っていきたい。

キーワード：ベトナム国、医療制度、リハビリテーション、作業療法